

2024 年度共同研究費 一般向け報告書

研究課題：インドネシアの生活習慣病に関する理学療法教育プログラムの調査研究

研究代表者：矢部広樹（聖隷クリストファー大学）

<研究に至った背景>

ハサヌディン大学（Hasanuddin University）は、インドネシア東部スラウェシ島に位置する国立大学であり、インドネシアの中核的な高等教育機関の一つです。特に看護学・医学・理学療法などの医療系学部が充実しており、東インドネシア地域の保健医療人材育成を担っています。聖隷クリストファー大学とハサヌディン大学は、2023 年に教育および国際共同研究に関する MOA（Memorandum of Agreement）を締結しました。これにより両大学間の教育交流や共同研究が促進され、本研究はその具体的成果の一つとして位置づけられています。

<研究の目的>

本研究は、日本とインドネシアの理学療法士養成課程における「生活習慣病に関する教育内容」の違いを明らかにすることを目的とし、国際的な教育連携の基盤づくりを目指して行われました。

<調査の結果>

日本では高齢化に伴う糖尿病やがんへの対応を含む実践的な教育が特徴であり、大学課程は 4 年間、124 単位以上の履修が求められています。一方、インドネシアでは若年層や感染症への対応が中心で、心疾患・呼吸器疾患を対象とした短期集中型の講義が多く、学士課程 4 年に加えて 1 年間の専門職研修を含む 5 年制となっています。

両国の共通点として、COPD や心不全などの呼吸・循環器疾患、呼吸補助療法、心電図の理解などは重要な教育項目となっており、基礎的な医学知識に加え、実技指導にも力が入れています。一方で、日本は急性期医療や代謝疾患への対応に重点が置かれており、インドネシアでは先天性心疾患や肺炎、結核後遺症など、地域特性に基づく教育内容が展開されています。

<研究の発展性>

本研究を通じて、教育内容の共通点と相違点を明確にし、国際的に共有可能な教育モデルの構築に向けた基礎資料を得ることができました。今後は、相互の教育体制を活かした国際協働が期待されます。